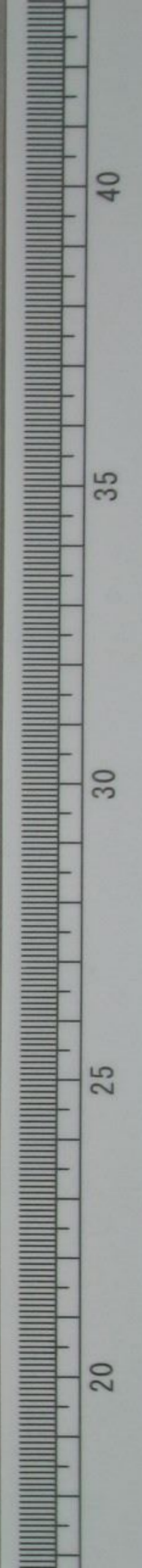




書本室鑑

三

子 4
1077
3



1077
3

繪本寶鑑卷第三目錄

三十八

慈童

三十九

巨靈人

四十

齊后破環

四十一

姐奴

四十二

将手癩圖

四十三

起義將合

四十四

裁安道

四十五

西王母

四十六

金沙金王

四十七

費長房

四十八

蝦蟆仙人

四十九

決揚

五十

上利劍

五十一

張伯房

繪本卷三目錄

七

五十二 列子

五十三 初平叱羊

五十四 斧柯

五十五 張果郎

五十六 一角仙人

五十七 琴高

五十八 盧敖

五十九 吹笛圖

六十 孫康

六十一 休穆

六十二 車胤

六十三 孫敬

六十四 月支

六十四 尨鉞

六十六 嫦娥

六十七 舟彎



世八 姦童

姦童八周乃穆王寤也此童男あり幼きを
釣ひけり。世のあまらふありしうば。容貌羨靡
ふらりあり。肌骨乃風濺たやうん
よらうべつふかむどいり。楊乃一室花二室ふ
笑めりまらふとよハカ人。鬼とあやま。雲間
とまけくおは月のかううお照く。此うやむせ
母らうりんをいさふらう。窈窕。嬈やうあり
うば。後宮。鏡と抛てこせと。姤も。室女粉
と糖つらく見んとと。新小。帝のれおやん。敷
たう。釣まらうりんとと。海へげし毛。理と新

一が日すむやせんとおのひ谷水乃やうりう
 菊乃おちき不ありしがけ菊乃葉ふかきつけ
 てむらふその菊乃葉ふかきうあふ不老不
 死の業此水とありそのあぐれ乃そくそく
 くらかれ里の民までも皆八百餘歳と
 小多るとや。意氣とを幾年磨れども移
 少年乃姿の變せず。魏の文帝乃時におく
 彭祖とあそくくらりともや。他彭祖とふ人
 今一人あり。これ上古黄帝れ末小陸終とつれ
 人あり。その名一壽よふ人の子と生む。三人たの
 服さけて生む。三人は右乃統さけて生む。一良名

ころあけ二八冬胡才三小あくら子と彭祖とふ
 神伝小彭祖律ハ録。顔頊の言孫殷の末
 小至て年己よ七百七十歳少て妻をせし
 遂よ流沙乃西よ往。壽とらそ終ふ也と
 彭祖の才と今人と云。そ才と曹姓と云。曹姓
 才と季連と云。心と六人あり。風俗通小陸終
 鬼方氏よ娶。是と女姓とふ。蓋孕んでと
 年育む。そ左脅と替つて三人も。そ左脅
 と替のく又三人おとそく。け彭祖の事
 史記ふんそく。意氣とふ各別なり。蘇
 混乱志くそありゆ。今そふ志別なり



九

巨灵人

虎と電と一ちりちり也。巨灵搥けはさきも子不破
 華山千万重。大ちりちり山と川ととあり。
 あれは白く月影の家山。びりりの人もこれ

十

新后破環

吳國舟のふり。因王とふあつてをるが政事
 あれと志と。終り裁ささる。其子は法章とと妻
 と。呂とふあつて。大史家乃庸吏ととあり
 と。りあり。け法章。教答とと徳ふ。や。か。る。者
 と。そ。仇。端。乃。や。り。か。ら。う。ば。其。人。大。史。敷
 が。娘。の。う。ら。と。み。と。常。れ。人。お。り。と。つ。あ。れ

人れ其政を以ておこすとてはひひのほを衣食と送
回慰めあつた。保もなまはしやあまのちを
一及びびらる。やうそ女をえらうつてさそをいどく
たきそののちを以て。はむすめはわらうそをあらも
やさうかりたれど法章。あまをえり情を教を
けりてさすくめり。めどさうさうら。法章のちり
経わがりて。帝位をおさる。こをと襄王とぞなり
かの大吏乃しすめと后ふとさる。冊しが襄王崩
ざくのち。太子建位とつぎ。いまご幼なりしうの
后からうと。万機乃しつらうと。急らうと。こをと有
后とふ。そのとと秦の始を帝。後者と稱れ

后よりうら。玉連環とさうりて。曰。外のかちり。國
とす。い環と解る。やとけりをれど。后。建位
のち。後。解る。とさる。后。則。推。是
い環とさうらわらう。秦乃し使。小。海。謹。以。解。と
のさゆひらら。使。志。志。海。り。は。一。奏。し。は。れ。は。始。皇
と。と。う。ら。う。と。後。の。后。の。正。直。に。し。か。り
きり。と。て。は。と。う。り。の。後。と。や。め。ら。う。柞。高。明。の。大
備。み。あ。つ。と。さ。う。細。勢。小。極。忽。あり。と。と。と。り。ふ
後。后。富。家。の。け。さ。さ。う。世。情。と。さ。り。や。ん。在。今。帝
かり。事。也。は。さ。ま。が。い。あ。く。と。お。り。ひ。今。れ。襄。へ。と。あ
り。れ。う。の。後。さ。の。操。ま。の。り。う。と。や。柞。か。と。と

轆轤丸

水磨のまじり依りて
 抱ひていふいふとさるん
 一人乃後磨の中み
 踊りて皆幼る者
 あるまじいせん
 周るまじい一人の親乃
 方へさふりしれゆふ
 買ひ見ありて側
 かりふと抱あひて
 磨とさるり水



と出さるるはすあつら
 あり。い買子見ハ司馬温公の稚き娘なま
 浮子三 起子持合

待と作らふ起子持
 合乃はつあつと起
 合乃起一合あり
 ち合二合あり
 とうけて作らふの字
 とうくれとよむ持ハ
 中三合いりあつと
 と作らて作ら合を

土言



第十五 西王母

西王母ハ仙女あり。漢ノ武帝ニあひたる時侍女
 柘とぞりまれとて。漢史の中におあり。盤
 柘七ツあり。大ニ鴨乃子れとて。飛鳥又まを
 母とつもの内。つとて武帝におあり。身ハ三ツ食
 たり。武帝食くまあり。甘く美なり。少
 あり。まろく。小盤に味ひらつて。帝は柘と授
 とつ子。西王母といつて。三子養ひ。多し。まを
 生むる年。中交ハ地。これと行くと。まを
 武帝とつて。行る年。と。冷小。時ハ七月。ちあり。
 武帝ノ宮中入り。改めたりと云

第十六 金沙女王

右小ハ西王母の侍
 女あり。金沙ハ婢。金
 王ハ妹。給小ニ。懐一
 對の。と。た。西王母
 後あり。べし。た。道
 盤。た。と。柘の。枝
 へ。解く。二人。と。ふ
 まろく
 けろく



去先らきり。衆れ鬼神等は長房と把殺し
 たりし也。又考ふ衣の仙人の壺公とす。市小
 存く茶と書り。小空壺と隸れ。朝子無く。日
 當りれ。壺の中より。死つ。負長房。橋上
 りり。壺と入る。其常れ人。子。つら。つら。と志
 せり。壺中。入る。と。長房。壺。入。心。大。小。廣
 く。志。く。壺。色。ふ。て。彩。ら。き。門。何。り。その。門。と
 する。不。周。道。あり。橋。觀。皆。金。珠。玉。と。満。め
 たり。瑤。の。階。の。の。を。と。仙人。儂。然。と。して
 在。た。乃。侍。者。數十人。侍。志。ん。と。侍。り。書。志

房をれとふ。仙人のつら。志。の。仙人。あり。
 信。して。皆。人。高。り。寓。る。年。と。志。亦。長。房
 病。子の。り。つ。ら。は。續。搜。神。記。に。遠。東。乃。長
 房。の。病。あり。人。の。言。と。曰。く。あり。志。つ。ら。と
 丁。令。威。也。と。ま。る。ん。で。千。年。今。始。と。ゆ。れ。故。記
 志。を。け。し。く。人。氏。ハ。非。あり。何。ぞ。也。と。志。ん。と。ら
 家。累。多。し。と。志。こ。ら。志。ら。り。して。病。の。志。ら。れ
 志。若。と。亦。弟。信。志。り。いつ。黃。鶴。山。の。仙人。あり
 黃。鶴。山。の。志。ら。り。と。志。と。志。若。志。捕。り。と。志。は
 子。安。と。子。人。色。志。ら。り。の。り。と。志。又。丁。令
 威。は。別。費。長。房。が。志。あり



蝦蟇仙人

蝦蟇仙人
今湯より乃蝦蟇と
りり仙人あり

鑄揚

仙人あり
鳴せり



上利劔

劔の
仙あり



五十一

張伯房

字よりありし仙術なり

五十二

列子

風一の列子れ書り。壁をわたりてふと法あり

五十三

初平七年

初平年と物と合華山の室れ中平

余のあり。初平の兒乃初記をてつるのに

道士乃と教く初平に急せり初記年のあり

而とつて。山東よりきてつるふみれ

白あり。初平るふみじつとつてつる

石松子の年とあは。是とてつる初記と子

乃と。初平炭を胎し。青子の色あり。初平と

赤松子初記と身殿といふなり



御子うまううなる。海く百年の勢とあり。
 仙家うらうらとく。松く寿命短くありあり。
 一妻の妻より人召百年の命とあり。
 是ハ七世の孫よありまうく。生くらまはあり。
 夏中れどくあり。七世の孫よりまうく。
 松づきふあり。世の孫よりまうく。
 ともと見えそわ世の中。に長せとわう。
 迷ひありといふ。下らあり。
 あり。在今に。おんあり。
 松一あぞあり。あり。長嶽のあり。
 くらやうらうあり。のき。松木の孫。



お十 孫康

孫康未嘗行て
此の如く雪を聚め
て夜をせり

六十一 休穆

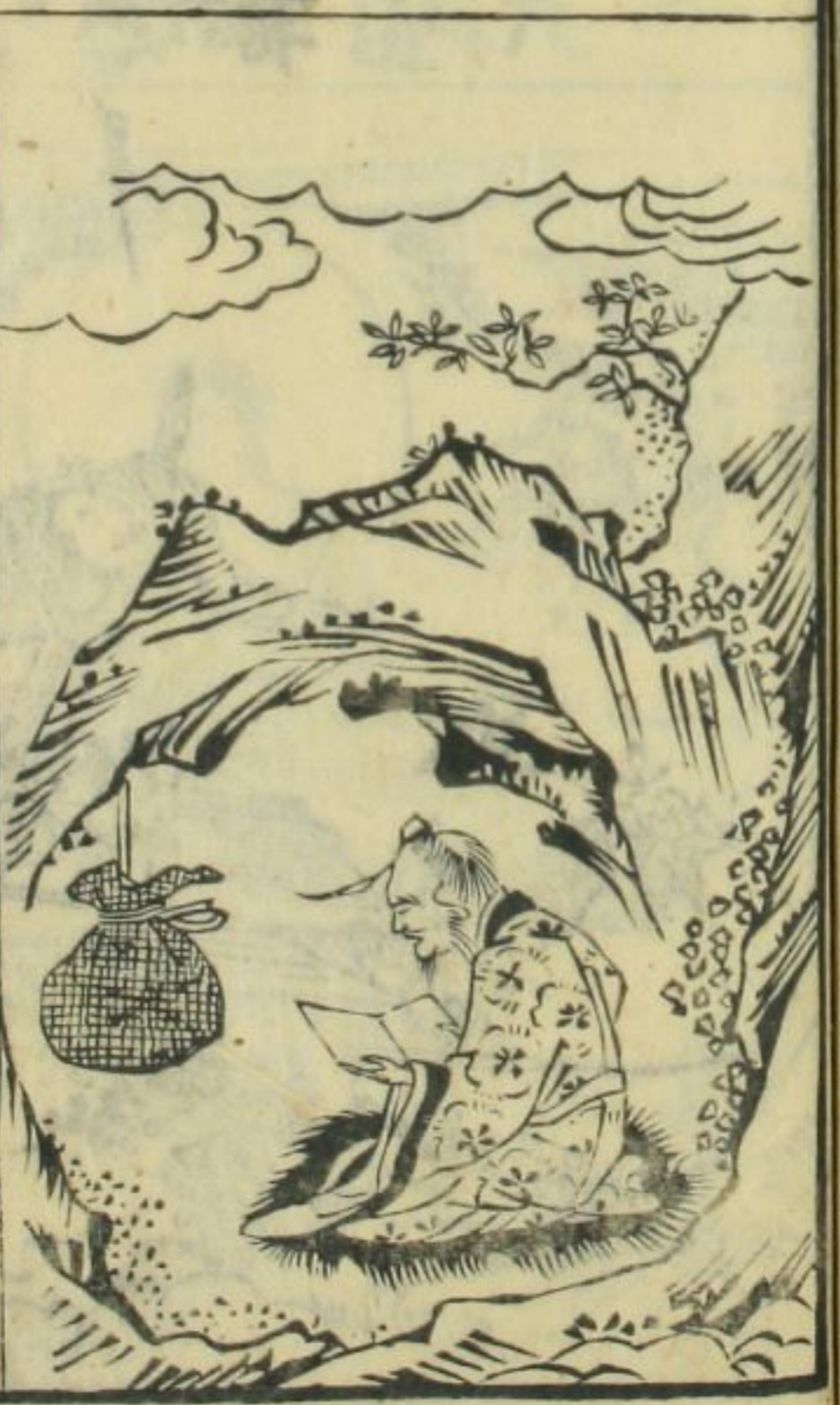
休穆其父は深く
ふとく射の器
なりともあはざり
とあり

六十二 車胤

車胤未嘗行て
此の如く囊に
螢と盛その光を
夜をせり

六十三 孫敬

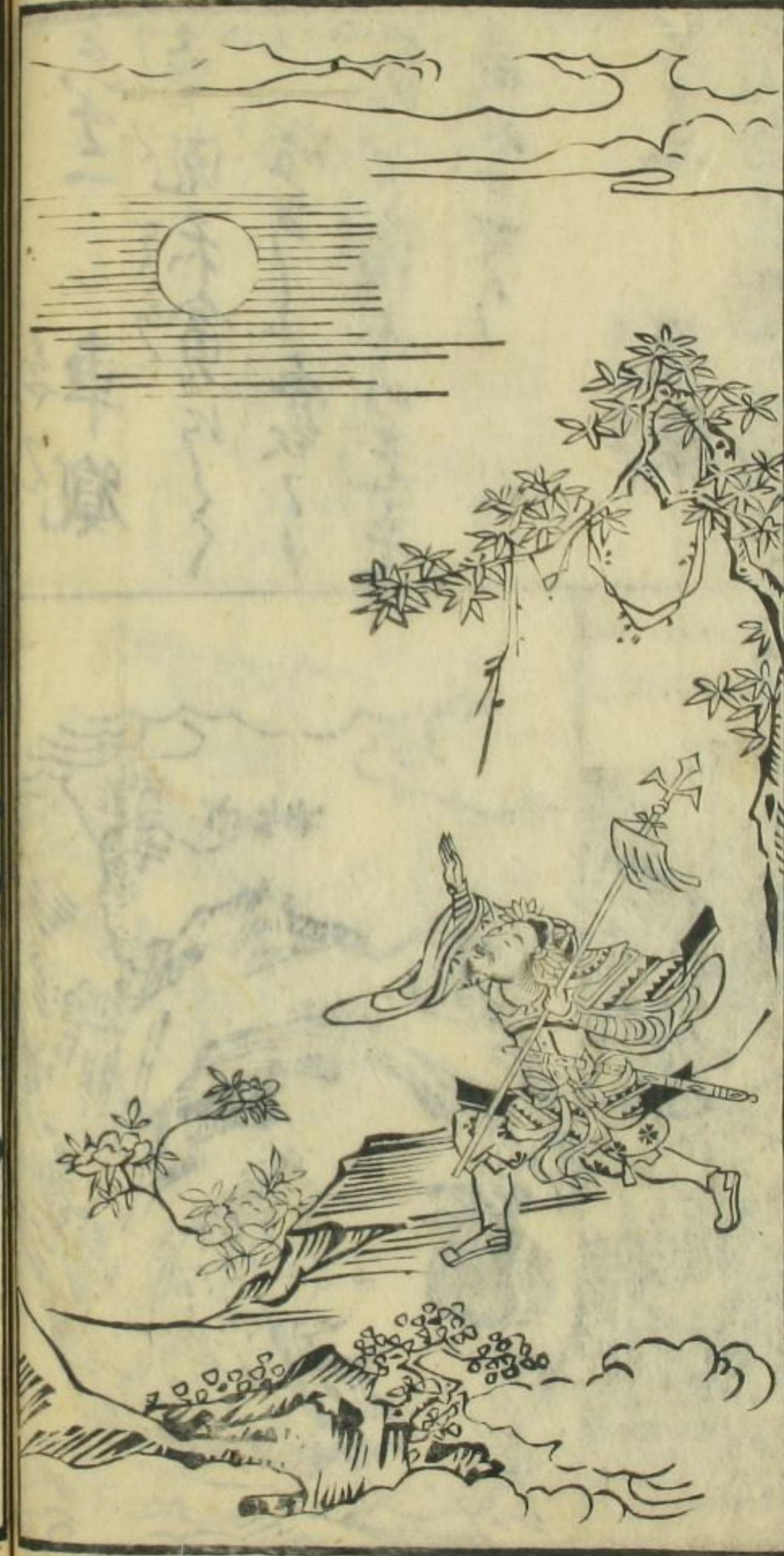
孫敬其父は
門戸を閉て書と
らみし人あり



辛酉

月支

月支月と招き返さしとかり月支還月威
 被縛炎王使と至常れ登ふり此約り



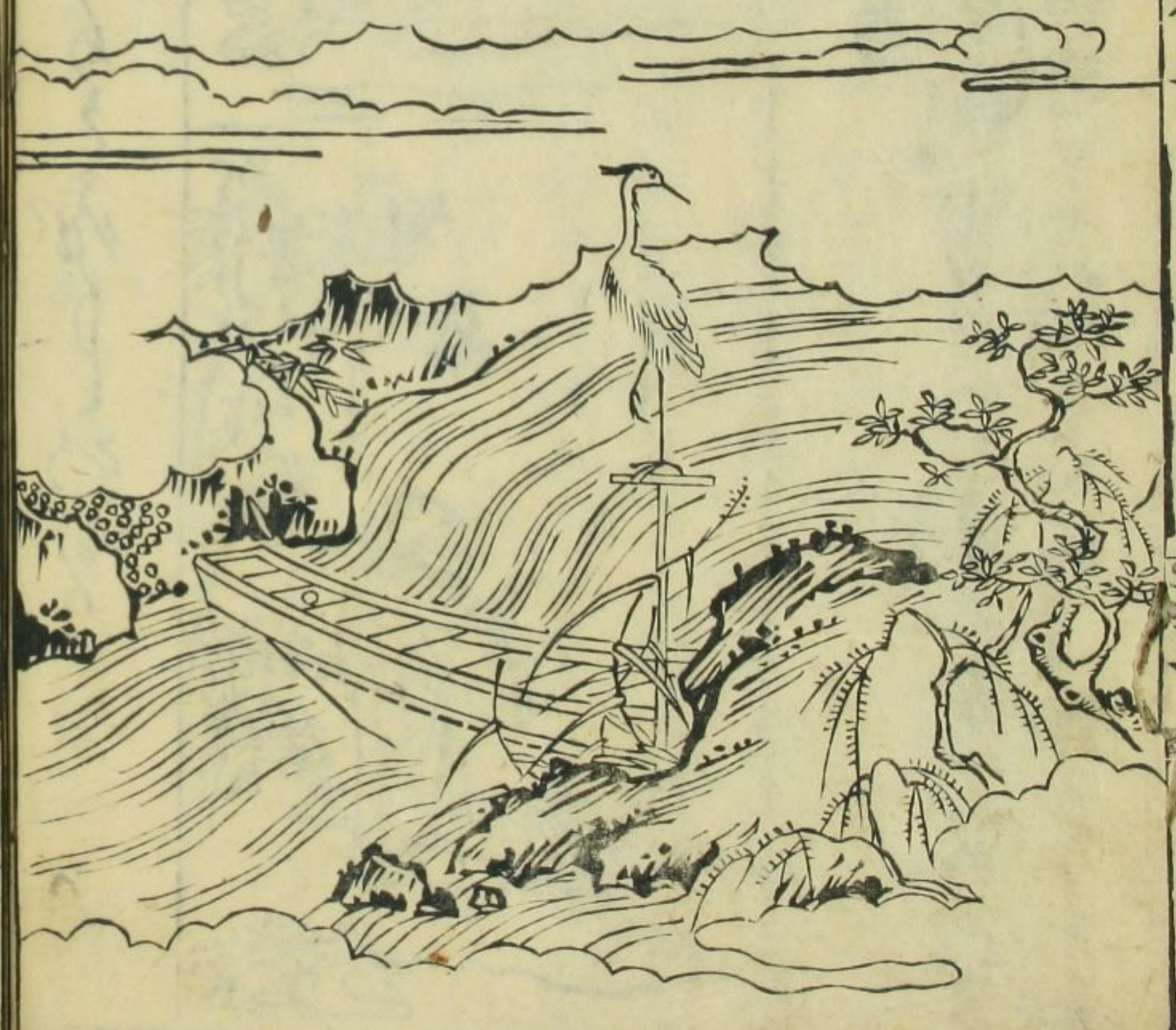
ちん

鳩鉾

秋迹如來雪山ました
 時勢一川の鳩と遊
 ありけ鳩め東の橋の
 へまを花をなれど驚
 けらんととちりみくら
 せ東の者れ肉と別あり
 終よりけ鳩の童さと
 じりて驚よあま
 こまやいまは驚よ
 鳩のそりり人



小舟小給はし。
 或は法師かこれ
 しく書く所
 感入一と也。
 世は侍の徒
 まさかろくは等
 志きるやあり。
 或人の物持り。
 けしき帯るる
 法師は執事
 いろ。園の取



小舟のあり振とさくをさるるなりしよはるこ
 まよるも。或は法師かこれ
 兼てさるる人れとけき。松のつとせり。兼
 笠はるると表と柄の園とるも。富の乃持持也
 と。かろくをさる。その舟ふさくも。ありてそれ
 ハ深淵の取ぬの法もかれん人れあり。持持
 りよはるるどと。けしに右の物持。さるる人。その公家
 の深淵の法も彼法師がとくふらりてちりと
 云ふれん。舟中。幾ひとるるなり。法師の舟と
 是らつとも。のまれん。左更ふさるるも。何れ
 説のあり。ろき。方と出。そのまれん。深らるるなり。

此もゆりもあつらふべし

六十八 勅使定山

定山拾遺一あり

時帝より勅使あり

世み興く政とゆふ色

とりりしとき

あそ迎去しと也常

みゆり定山八等と

拾遺八等とゆふ色

とあし



糸本

三

